

(寄稿)

医療施設建替えプロジェクトにおける コンストラクション・マネジメントの役割

< はじめに >

厚生労働省の建築年別病院数データによると、築 35 年を経過した病院が現在も多数存在していることがわかります。医療施設の競争力を考えた場合、建物の寿命は一般的に約 30 年とされており、老朽化した病院の建替えが今後とも継続して行なわれることが推定されます。

今号は、2009 年 4 月 28 日発行の Healthcare Note (No.09-14) 「医療施設建設プロジェクトにおけるコンストラクション・マネジメント(CM)」を基礎としながらも新しい視点も加え、リニューアルしました。

建替えに至る要因の分析や良い建替え・悪い建替えのパターン等についても筆者が医療施設建設に関わった経験をもとに言及しております。

病院事業において、建替えは最大かつ最重要の投資案件であり、その成否は病院の将来を決定づけるといっても過言ではありません。失敗が許されない新病院建替えプロジェクトにおいて、様々な問題点の解決に寄与するコンストラクション・マネジメント(CM)方式導入のポイントを解説いたします。

2011 年 10 月 31 日

Healthcare note

(No. 11-12)

寄稿者名：
日建設計コンストラクション・
マネジメント株式会社
アシスタントマネジャー
東 利彦

編集主幹
野村ヘルスケア・
サポート&アドバイザー
河添 麻美

野村證券株式会社
金融公共公益法人部

野村證券株式会社 金融公共公益法人部 〒100-8130 東京都千代田区大手町2-2-2 アーバンネット大手町ビル

本資料に含まれる情報がもたらす一切の影響、本資料の内容に関する正確性、妥当性、法務上のコンプライアンス等につきましては、野村證券はその責を一切負いません。本資料中の記載内容における各種法令・規則等は随時改定されますので、あくまでも参考資料としてお取り扱いください。また、記載内容における法令・規則及び表現等の欠落・誤謬などにつきましては、野村證券はその責を一切負いません。本資料は、貴社が経営判断を行うに際して参考となると考えられる情報の提供を目的としたものです。経営判断における最終意思決定は貴社自身で行われるものであり、野村證券はこれに対する意見または判断を表明するものではありません。本資料のご利用に際しては、弁護士、公認会計士等にあらかじめその内容をご確認ください。